

〔夏季高温期に対応できる苗物花きの生産と景観維持技術の開発（受託研究）〕

河原なでしこの播種時期と開花特性の把握

岡澤立夫・小幡彩夏

（園芸技術科）

【要約】河原なでしこは、花色に関係なく、播種時期を遅くすると、到花日数が短く、草丈が低くなる傾向にある。オリンピックの品目の一つに使用する場合、播種時期は4月8日以降で充分である。

【目的】

2020年の夏に東京オリンピック・パラリンピックの開催が決まったことで、緑をつうじた豊かさを国内外の人々に感じさせる日本ならではの「おもてなし」を達成する機運が高まっている。ここでは、「和」をイメージする河原なでしこで花色や播種時期による開花性の違いを検討し、オリンピックでの利用可能性を明らかにする。

【方法】

河原なでしこ混合（タキイ種苗株）を供試し、2015年3月10日から約2週間おきに5回（①3月10日、②3月24日、③4月8日、④4月21日、⑤5月5日）、市販播種用土を充填した288穴セルトレイへ播種した。本葉展開時の播種約20日後（①3月30日、②4月13日、③4月27日、④5月12日、⑤5月25日）に3.5号のビニールポリポットへ1本定植した。定植用土は、赤土：腐葉土：ピートモス＝5：3：2（体積比）の混合用土とし、基肥は用土100Lあたり成分量でN＝54g、P₂O₅＝158g、K₂O＝54gを施用した。1輪開花した時点で花色を赤、濃ピンク、薄ピンク、白の4種に分け生育調査を行った。

【成果の概要】

1. 成品率は、4月8日に播種時のみ88.9%と高かったが、播種時期による違いはなく、概ね75%程度であった（表1）。出現率は、赤色の割合が10%以下と低く、白色が20%以上、ピンク色が濃淡に関わらず、30%以上であった。
2. 花色に関係なく、播種時期が遅くなるほど、到花日数が短く、草丈が低くなる傾向にあった（表2）。到花日数は70～80日、草丈は45～55cm程度であった。3月10日播種と5月5日播種を比べると、到花日数は約10日、草丈は赤色を除き、約10cmの差となった。また、多重検定の結果、花色も到花日数も要因効果に有意差がみられたが、相乗効果はなかった。色別で見ると、ピンク系と比べ、赤色と白色で草丈が低くなる傾向であった。
3. オリンピックが7月下旬から始まることを考えると、花壇等への定植は6月中旬以降が最善であると考えられる。表2の結果から、開花時期を開催時期に合わせるためには、播種日は4月8日以降であればよいことが明らかとなった。
4. まとめ：以上から、河原なでしこをオリンピックの品目の一つに使用する場合、播種時期は4月8日で充分であった。今後は、花壇植栽後の耐暑性や耐乾性を明らかにするとともに、他のなでしこ類についても開花性を明らかにしていく予定である。

表1 播種日別成品率と花色の混合割合

播種日 (月日)	成品率 (%)	出現率(%)			
		赤	濃ピンク	薄ピンク	白色
3月10日	76.4	9.1	31.4	36.8	22.7
3月24日	77.1	9.0	35.1	32.0	23.9
4月8日	88.9	7.4	34.0	30.1	28.5
4月21日	74.7	7.9	32.1	35.3	24.7
5月5日	74.7	9.8	26.0	38.6	25.6

注) 成苗率 播種数に対する成品の割合 (%)

表2 花色と播種日の違いが河原なでしこの生育・開花に及ぼす影響

花色 (A)	播種日 (B)	開花日 (月日)	到花日数 (日)	草丈 (cm)
赤	3月10日	5月29日	80.6 a ^z	50.2 a
	3月24日	6月7日	75.2 b	50.0 a
	4月8日	6月17日	70.6 c	47.4 a
	4月21日	7月1日	71.2 c	41.7 a
	5月5日	7月14日	70.1 c	45.1 a
濃ピンク	3月10日	5月27日	78.7 a	54.2 a
	3月24日	6月7日	75.1b	54.4 a
	4月8日	6月17日	70.3 c	50.2 b
	4月21日	7月1日	71.7 c	46.0 c
	5月5日	7月13日	69.6 c	45.1 c
薄ピンク	3月10日	5月28日	79.6 a	56.5 a
	3月24日	6月8日	76.4 b	54.5 a
	4月8日	6月17日	70.8 d	46.3 b
	4月21日	7月3日	73.3 c	45.7 b
	5月5日	7月14日	70.7 d	45.5 b
白	3月10日	5月28日	79.5 a	53.5 a
	3月24日	6月7日	75.2 b	51.2 a
	4月8日	6月17日	70.6 d	45.5 b
	4月21日	7月2日	72.8 c	42.7 b
	5月5日	7月14日	70.5 d	43.0 b
要因効果 ^y	A	—	**	**
	B	—	**	**
	A×B	—	n.s.	n.s.

z) 同じ英文字間(花色, 調査項目別)には, Tukey 法により5%水準で有意差がない
y) 分散分析は JMP ver.9 を使用. **は1%水準で有意差あり, n.s.は有意差なし